



刈谷スマートシティ
KARIYA SMART CITY

【資料 2】

刈谷市スマートシティ構想 (案)

令和4年10月4日

刈谷市企画政策課

- 1 構想策定の背景／構想策定の趣旨
- 2 構想の位置付け
- 3 取組方針／基本理念／基本原則
- 4 刈谷市の現状と特徴
- 5 刈谷市のスマートシティのテーマ
- 6 取組イメージ
- 7 推進体制／エコシステム
- 8 推進ロードマップ

1. 構想策定の背景／構想策定の趣旨

構想策定の背景

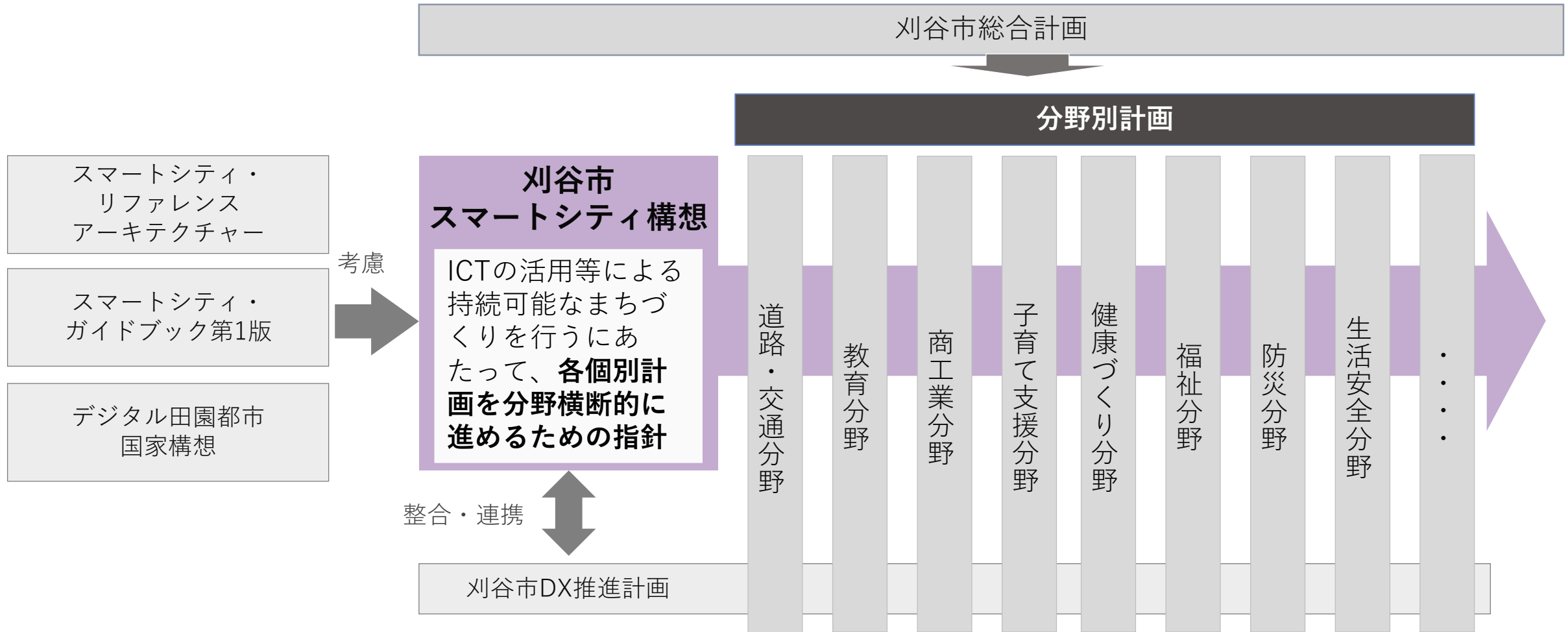
- 我が国全体で、人口減少、気候変動、インフラ老朽化など対応しなければならない課題が複雑化・多様化していることから、分野横断的に課題を解決し、地域の持続性を高めていくことが必要になっている。
- そこで、ICT等の先端技術を活用しつつ、マネジメントを高度化することで、都市や地域の抱える諸課題の解決を行い、また新たな価値を創出し続ける、持続可能な都市や地域づくりを行うスマートシティを推進することが求められている。
- 一方、本市では、自動車産業を中心に産業が発展し、健全な財政基盤を築いてきたが、EVへの転換を始めとした自動車産業の100年に一度の大転換により、産業構造が変化する可能性がある。また、将来に向けては人口減少等による影響も大きくなることが予測される。複雑化・多様化する課題や産業構造転換に対応し、人口減少等の変化に備え、未来へ持続可能なまちとするため、本市においてスマートシティの推進が必要不可欠である。
- なお、取り組むに当たって、デジタル技術を活用して定型事務の効率化・簡素化を図り、職員のリソースを確保することが不可欠である。

構想策定の趣旨

- 本市は、自動車産業を中心とした優良企業が多数立地していることから、民間企業の力を活かし、地域づくりを推進していくことが有用である。
- 令和3年度に愛知県と共同で「刈谷スマートシティ研究会」を立ち上げ、参画いただいた企業等と共に、実証実験プロジェクト等のアイデア出しを行い、スマートシティ推進に向けた礎を築いた。
- 研究会の活動を踏まえつつ、今後、官民で更なる連携を図り、未来を見据えて本市の課題解決や市民生活の向上につながるスマートシティを推進するに当たって、基本的な考え方と指針を示すため、構想を策定する。

2. 構想の位置付け

- スマートシティは、複合的な課題への対応等を図るため、分野を超えて進めていくことが重要である。刈谷市スマートシティ構想は、総合計画の各分野において、**分野横断的にスマートシティの取組を進める指針**として位置付ける。



3. 取組方針／基本理念／基本原則

- 本市のスマートシティは、新技術ありきではなく課題解決につながる実効的な取組を産学官連携で共に行い、安心・快適を市民が実感できるものとするため、以下の取組方針、基本理念、基本原則に則り推進する。

取組方針

安心・快適を実感できるまちを共創する

基本理念

課題解決を最優先

「新技術」ありきではなく、既往の技術であっても活用可能なものは取り入れ、本市の課題を実効的に解決可能な取組を着実に挙げる

分野間連携・産学官連携

複合的な課題への対応等を図るため、分野を超えて産学官連携を進めていく

市民が実感できる

実証のための実証で終わるのではなく、市民がテクノロジーの恩恵を実感できる社会実装につながる取組に注力する

基本原則

公平性・包摂性の原則

市民が等しくサービスを受用し、あらゆる主体が参画可能なスマートシティの実現

プライバシーの確保

パーソナルデータの利活用を進めるにあたり、市民のプライバシーの確保を徹底

運営面、資金面での持続可能性の確保

地域に根差した持続的なスマートシティの実現に向けて、運営面、資金面での持続可能性を確保

相互運用性・オープン性・透明性の確保

相互運用が可能なシステム、オープンなデータ流通環境、意思決定プロセス等における透明性を確保

データに基づく客観評価と改善サイクルの徹底

現状把握→反復検証→合意形成→成果検証のサイクルにおいてデータを活用した客観評価を実施

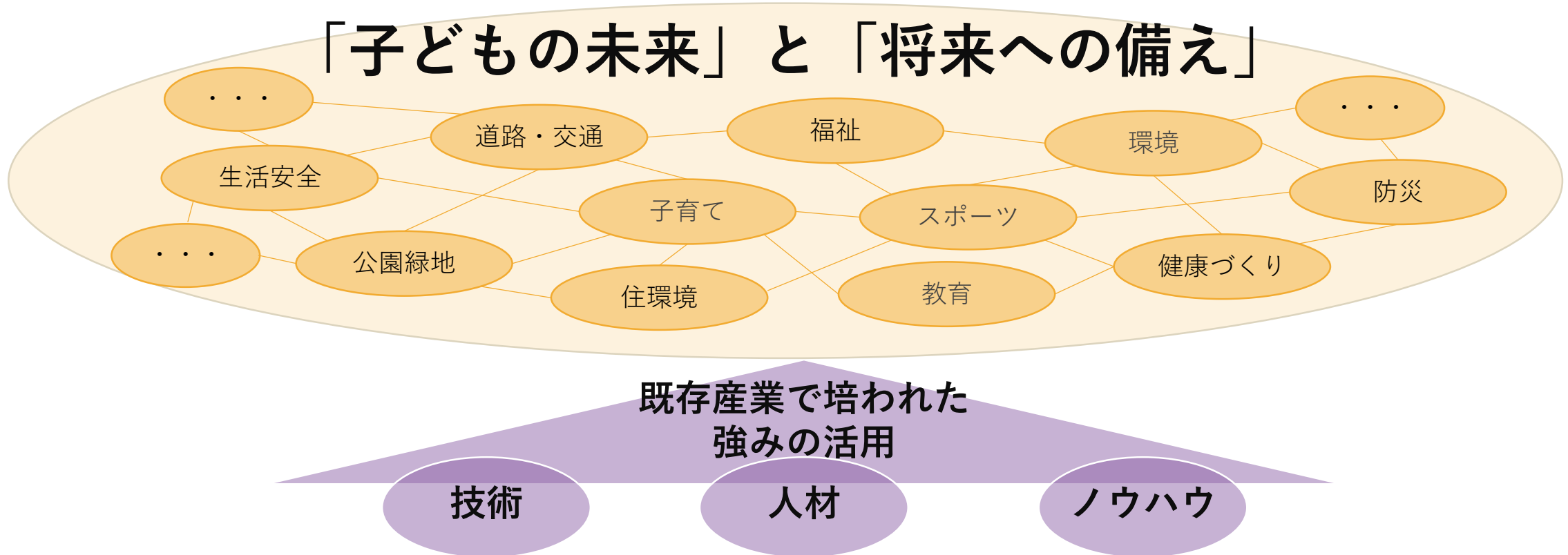
4. 刈谷市の現状と特性

- 本市のスマートシティは、以下に掲げるような本市の産業構造、地理的特性、人口動態等に関する現状・特性を踏まえて、分野間で連携して取り組むことが肝要である。

- **自動車産業中心の産業構造**であるが、EVへの転換を始めとした自動車産業の100年に一度の大転換により、産業構造が変化する可能性がある。
- 中心市街地に企業が集積し、通勤や物流のための自動車移動が集中することによる**慢性的な交通渋滞が発生**し、市民の快適性に影響を与えている。
- **交流人口の増加、若者の転入促進、転出抑制**のため、中心市街地の経済地理的条件やポテンシャルをいかして、にぎわいの創出が求められている。
- **子育て世帯の市外流出**が起きており、将来にわたる人口規模の維持に向けて、子育て世代に魅力を訴求し、子ども達が未来に夢が持てる地域づくりをしていく必要がある。
- スーパーサイエンススクールなど**理科教育に力を入れている**ことや、子どもに夢をあたえる**プロスポーツ・企業スポーツが盛ん**であるといった、未来の人材を育てる土壌がある。
- 現時点で全国平均に比べて高齢化率が高い状況ではないからこそ、**若い世代を含めた健康増進や行動変容に取り組む余地**がある。
- 2050年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロを目指す「**ゼロカーボンシティ**」に取り組むことを表明。エネルギーの地産地消、産業振興と脱炭素化の両立を進める必要がある。
- 道路や上下水道など充実したインフラを整備してきたが、老朽化が進む中で、**維持管理の効率化**が必要になっている。
- 南海トラフ地震や多発する集中豪雨などの自然災害に備え、災害の経験が少ない個人や地域団体であっても迅速・的確に対処できるよう**防災・減災対策**にも取り組む必要がある。

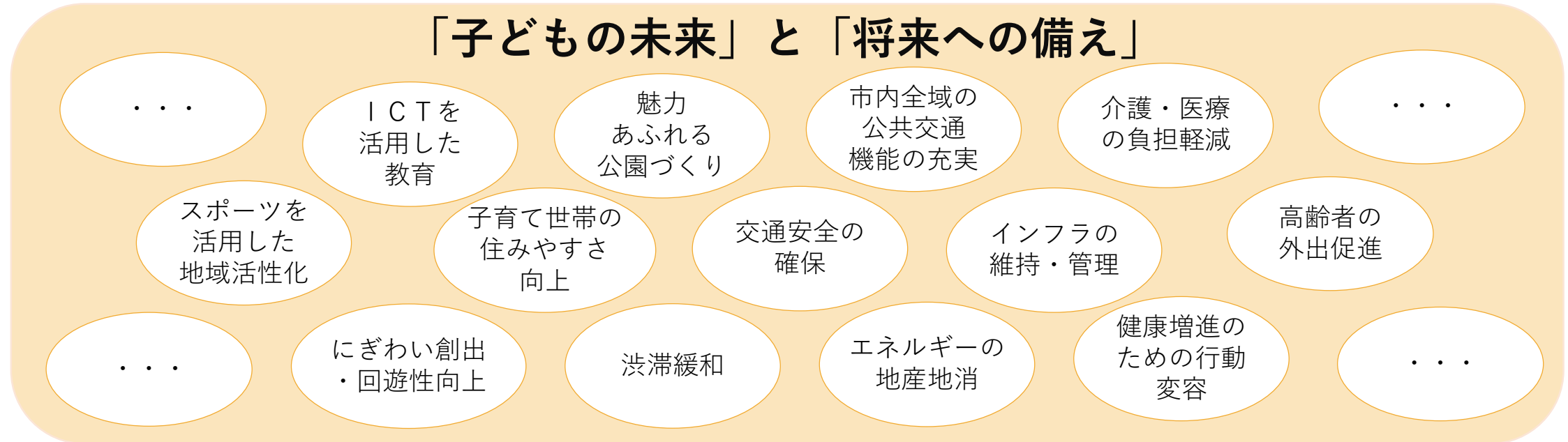
5. 刈谷市のスマートシティのテーマ

- 前述の本市の現状と特性を踏まえ、「子どもの未来」と「将来への備え」を本市のスマートシティのテーマとして、分野横断的に取り組む。
 - ・ まちの魅力が高まり市民が地域に誇りを持つことで、子どもたちが未来に夢を持ち活躍できる。
 - ・ 将来、高齢化の進展や災害発生などがあっても、ずっと安心・快適な暮らしを続けられる
- 推進するに当たり、自動車産業が盛んな地域で培われた確固たる技術や人材・ノウハウを活用する。

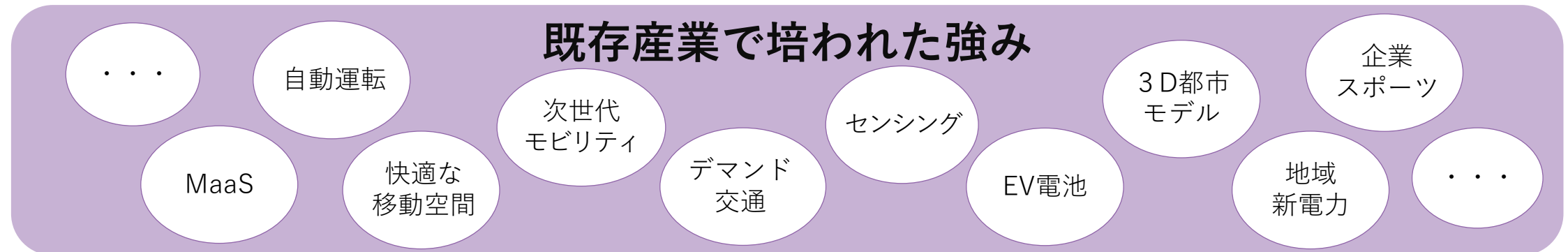


6. 取組イメージ

- 既存産業で培われた強みをいかしながら、「子どもの未来」と「将来への備え」につながる以下のような取組を産学官共創で行う。

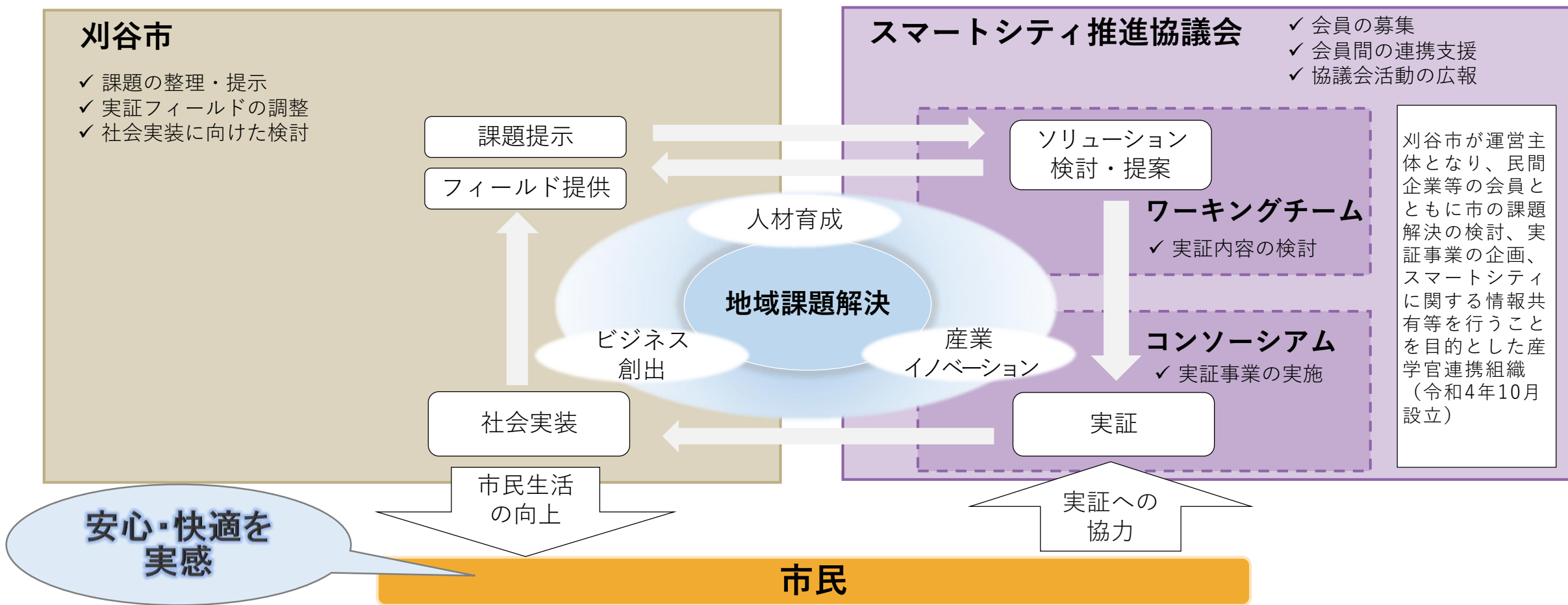


共創



7. 推進体制／エコシステム

- 本市のスマートシティの礎を築いた研究会をスマートシティ推進協議会に発展させ、課題の提示～実証～社会実装につながるサイクルをまわすことにより、**Win-Winの関係が成立するエコシステムを産学官共創で構築する。**
- エコシステムを通じて**地域課題解決に取り組む過程で、ビジネス創出、産業イノベーション、人材育成を促進し、地域の持続的発展につなげる。**



8. 推進ロードマップ

- 実証事業に取り組み着実に成果を積み重ねていき、第8次刈谷市総合計画と歩調を合わせて、基本計画の終了年である2032年頃には、**分野横断的なサービスを実装し、スマートシティを地域に根付かせることを目標とする。**

活動の深さ・広さ

フェーズ1
～2025年度

推進体制の確立

推進体制を確立し、機運の醸成を図りながら、実証事業を推進し、仮説検証を行う。

フェーズ2
2026～31年度

段階的な実装

実証を積み重ね、有効性を検証し、実装に向けた成功事例を増やす。また、早期に実装できるものは順次実装を進める。

フェーズ3
2032年度～

展開・定着

分野横断的なサービスを市域全体に展開し、改善サイクルに乗せて評価・検証を行い、スマートシティを地域に根付かせる。

順次、関わるステークホルダーが拡大、安心・快適を実感する市民が増える



刈谷スマートシティ
KARIYA SMART CITY

刈谷市スマートシティ構想

発行 令和5年 月発行

発行者 刈谷市

編集 企画財政部企画政策課

〒448-8501 刈谷市東陽町1丁目1番地

TEL : 0566-95-0003

FAX : 0566-23-1105